

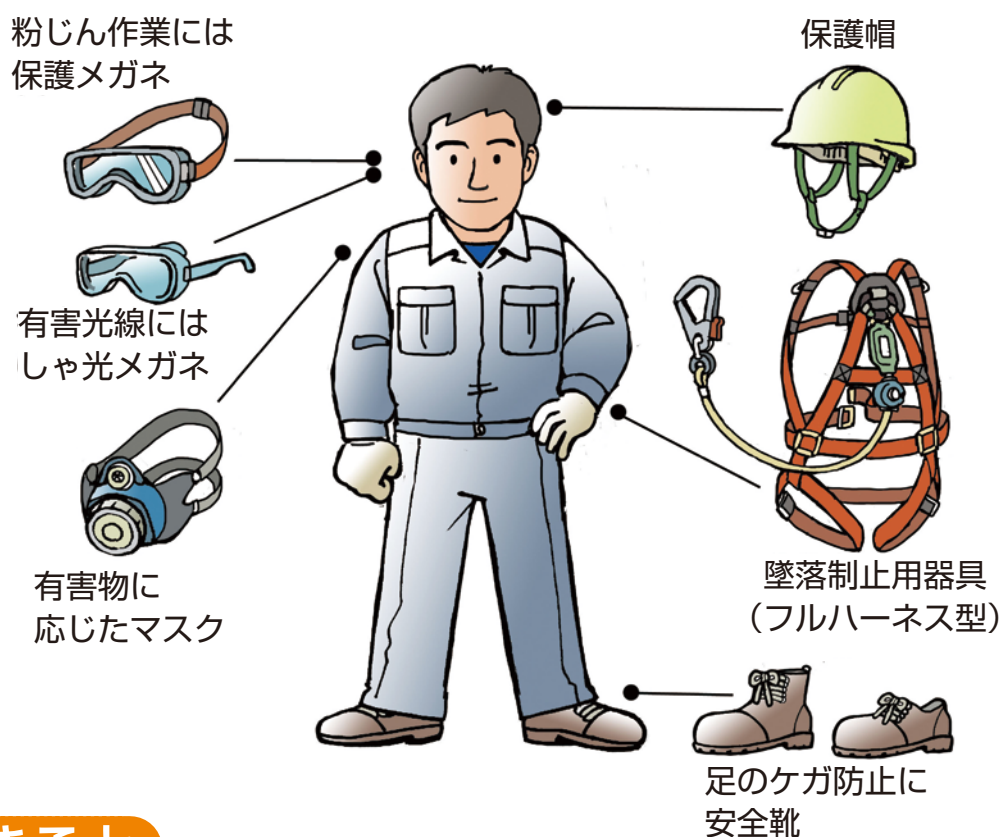


『屋根ふき業務』

安全衛生のポイント

屋根からの墜落防止措置

(1) 保護帽・安全靴



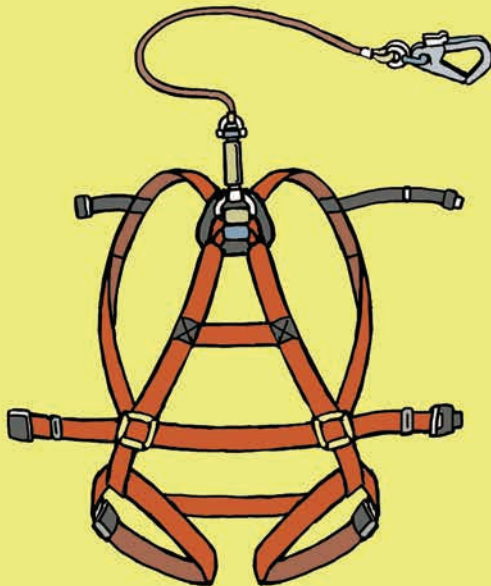
守るべきこと

- ①保護帽はまっすぐに深くかぶりましょう。
- ②保護帽のアゴひもは、緩みがないようしっかりと締めましょう。
- ③安全靴は、滑りにくいもの・曲りやすいものを使用しましょう。
- ④材料の落下などから、つま先が保護される靴を使用しましょう。

(2) 墜落制止用器具（フルハーネス型安全帯）

墜落制止用器具 （フルハーネス型安全帯）

墜落制止時の衝撃を身体の腿、肩、腰等の複数個所に分散し、身体にかかる負担を低減する安全性の高い安全帯です。

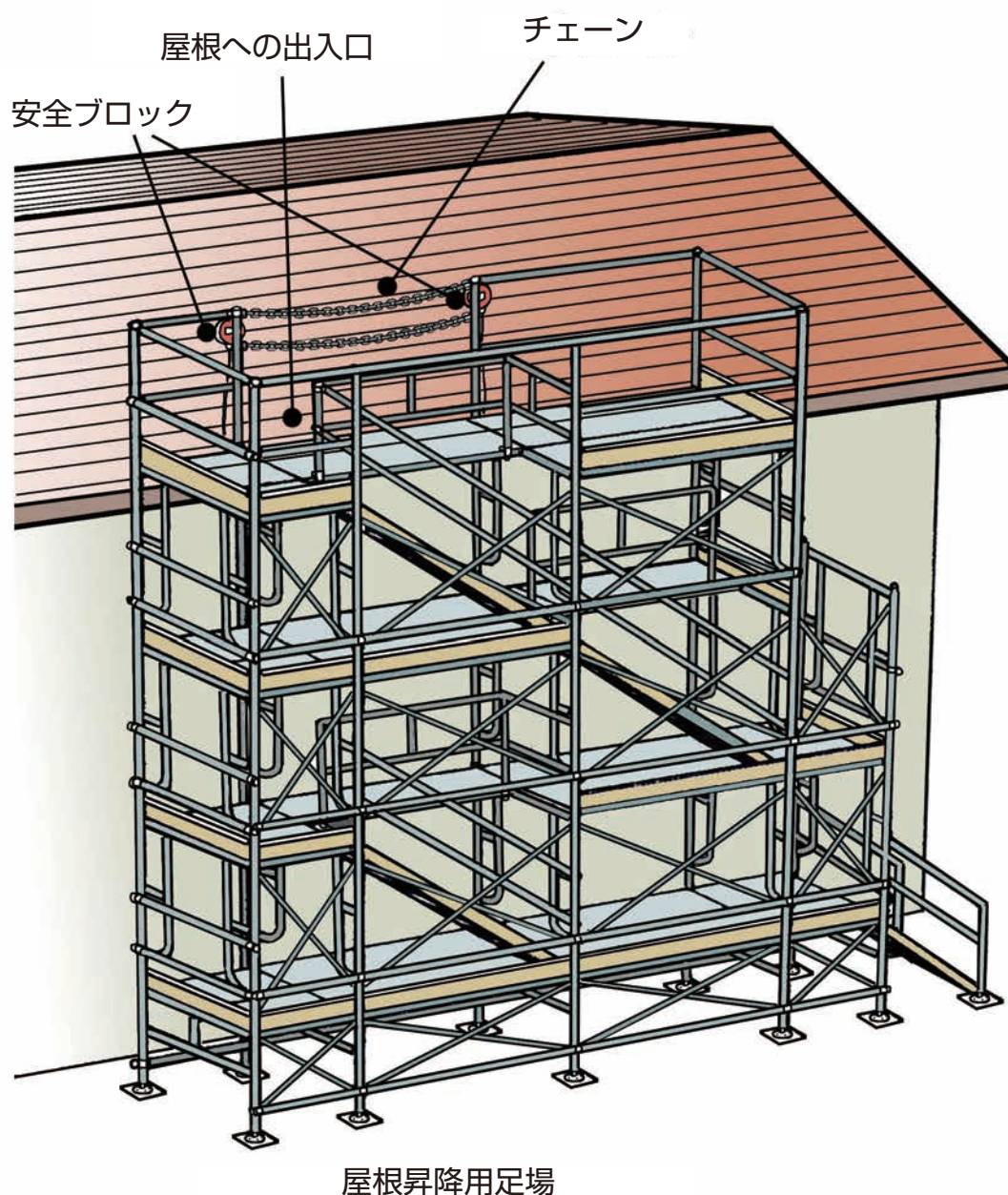


守るべきこと

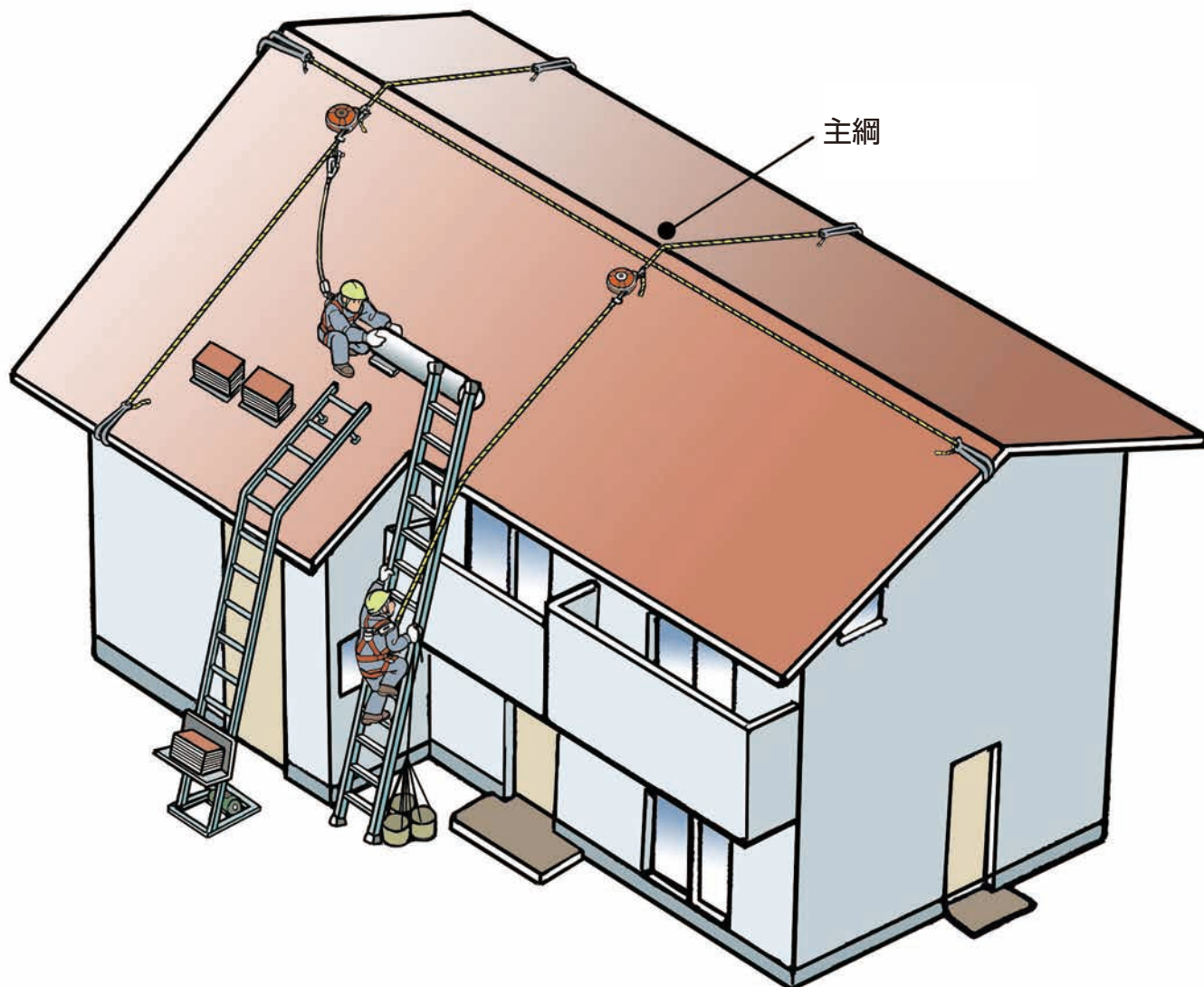
- ① 高さ 2m 以上の作業床を設けることが困難なところで、墜落制止用器具（フルハーネス型安全帯）を使用するときは、「安全衛生特別教育」が必要です。
- ② 5 m 以下では胴ベルト型（一本つり）も使用できます。
- ③ 確実に装着しましょう。

(3) 足場等の使用

敷地の状況、工事の種類により昇降用足場を使用します。足場の架設通路には、手すり及び中さんを設置します。



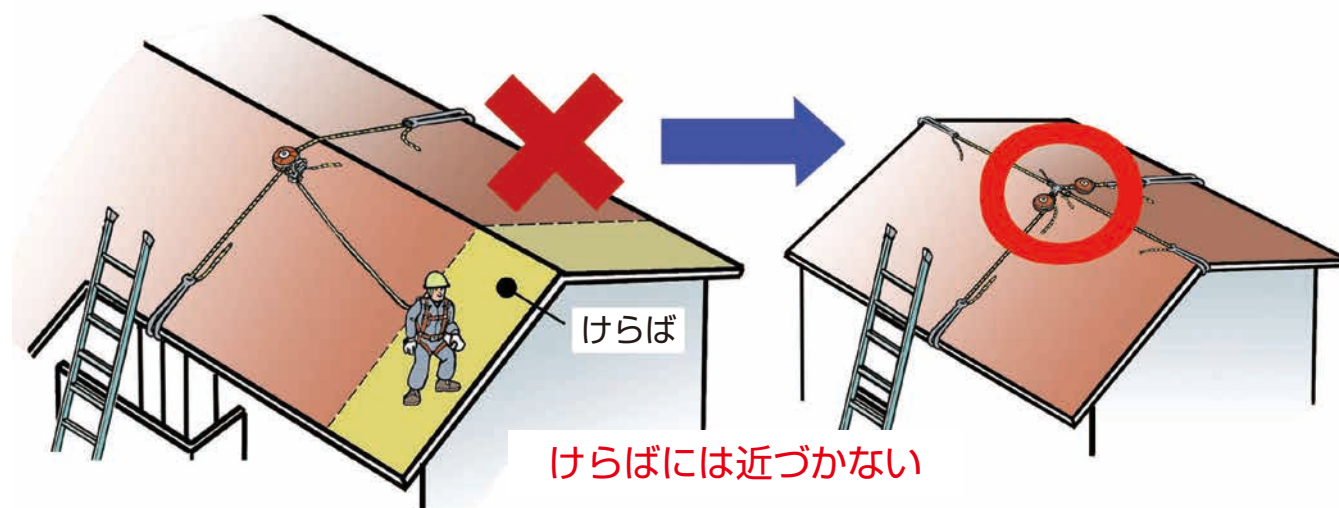
(4) 垂直親綱（主綱）の設置方法①



守るべきこと

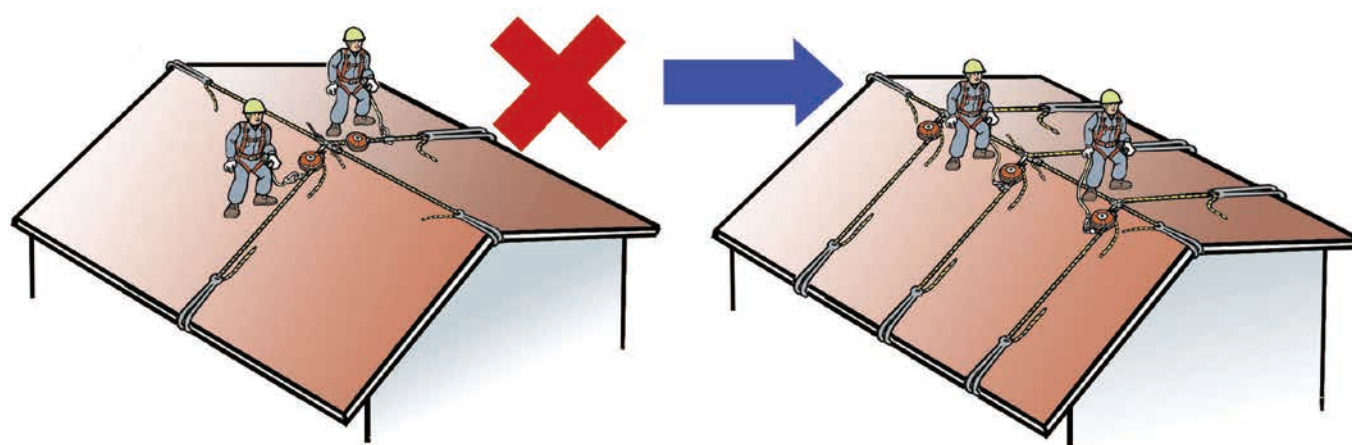
- ① 親綱は、日本産業規格に適合した強度を満たすものを使用しましょう。
- ② 親綱は、ゆるみのないように、かつ、支持物に確実に緊結しましょう。

(5) 垂直親綱（主綱）の設置方法②



守るべきこと

けらば付近に近づく場合は、親綱固定ロープで主綱または追加した垂直親綱が水平に移動しないような補強が必要です。

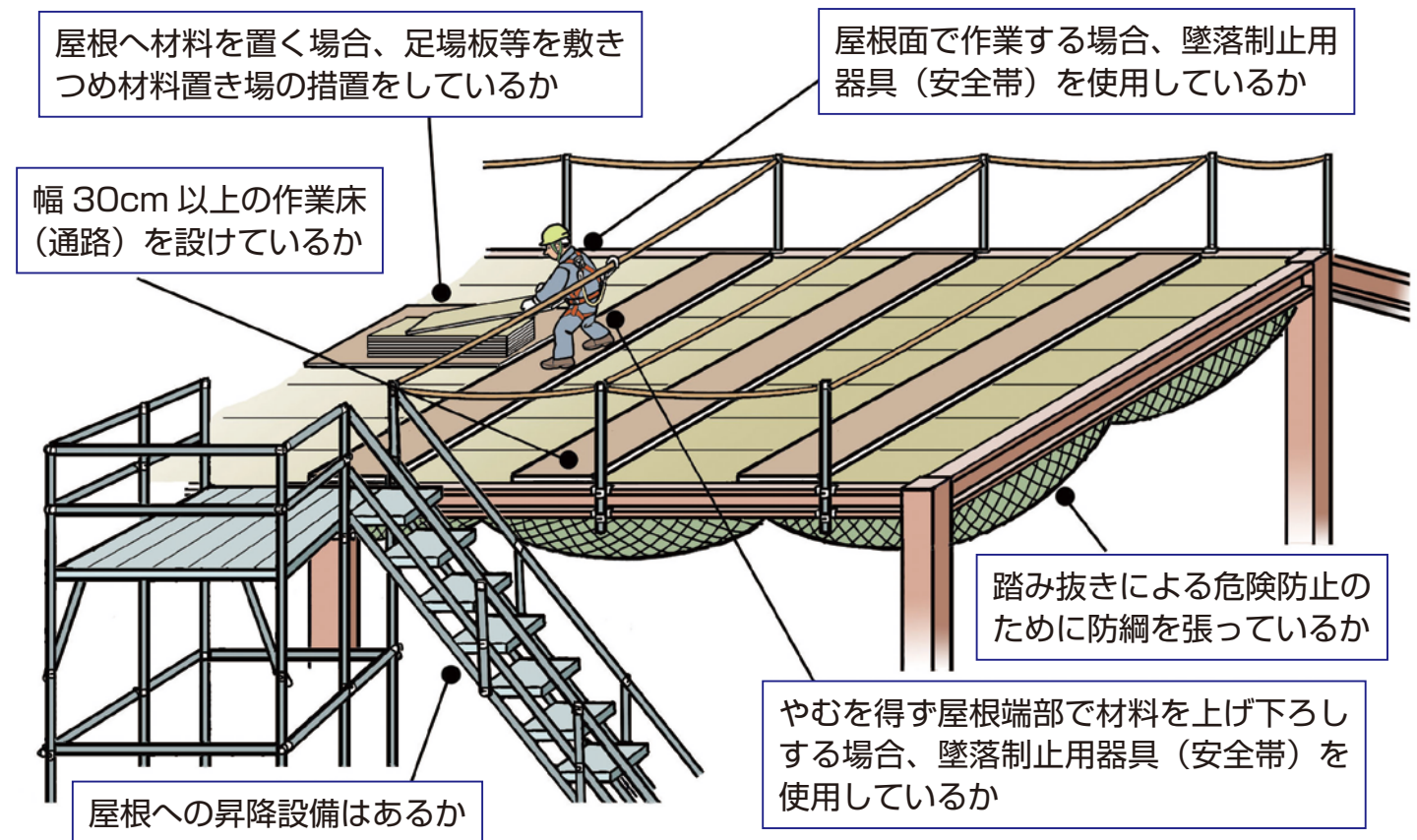


守るべきこと

複数の作業者が屋根上で作業する場合は、その人数分だけ垂直親綱を屋根上に増設する必要があります。

(6) 屋根上での安全な作業方法

墜落災害防止のポイント



守るべきこと

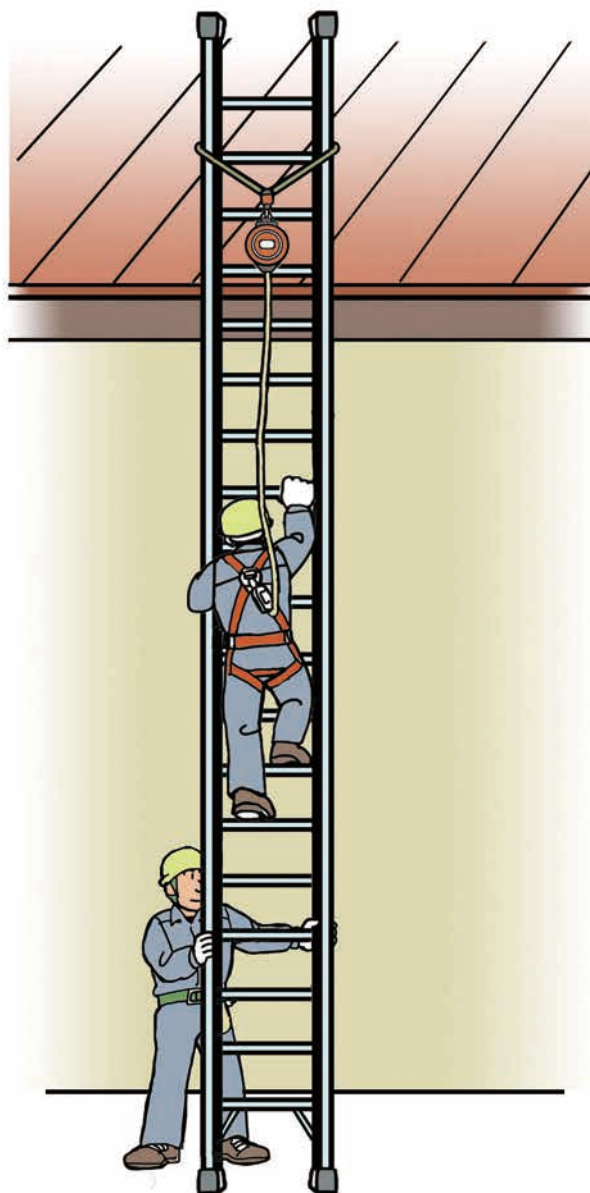
- ①作業床の設置および囲いなどの墜落防止措置を講じましょう。
- ②墜落制止用器具（安全帯）を使用しましょう。
- ③雨・雪で濡れた屋根に登るときは、職長の指示に従って行動しましょう。
- ④安全通路を確保しましょう。

(7) 移動はしごを使用して屋根から降りるとき

守るべきこと

屋根での作業が終わり、移動はしごを使用して屋根から降りるときは、次のことに注意しましょう。

- ①軒先のはしご上端部まで屋根を下る際、はしごの上端部の真上（1 m幅以内）の範囲から出ないように注意します。
- ②はしごの上端に設置された安全ブロックのフックを墜落制止用器具（安全帯）に連結したまま、はしごを降ります。



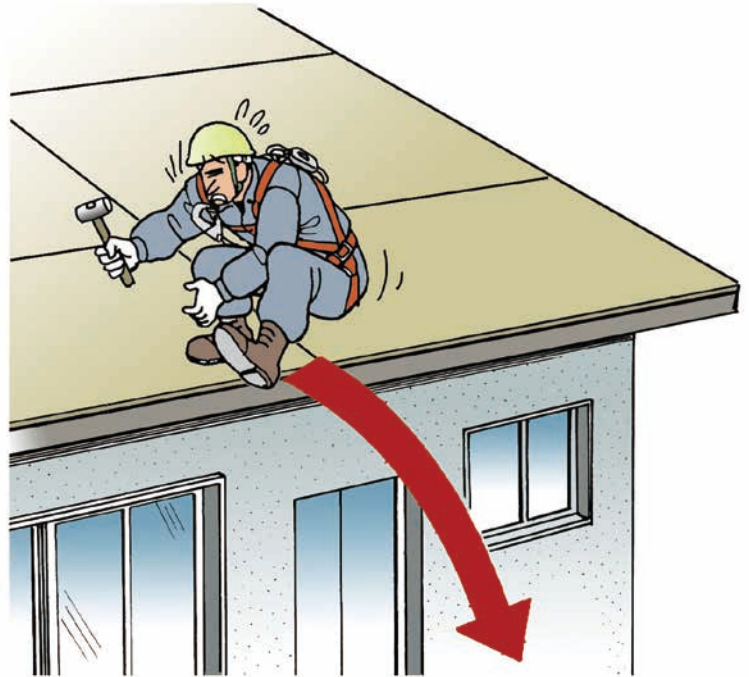
(8) このような災害が多い

災害事例①

木造家屋の2階屋根上で野地板を取り付けていたが、足を踏み外し道路まで墜落した。

守るべきこと

- ①建物の周りに足場を設けるようにしましょう。
- ②親綱を設置し、墜落制止用器具（安全帯）を使用しましょう。



災害事例②

倉庫の屋根工事中、スレート屋根の上を移動していた際に屋根を踏み抜き墜落しコンクリート床に頭部を強打した。

守るべきこと

- ①スレート上で作業を行う場合は、踏み抜き防止のための「歩み板」を設けましょう。
- ②スレート上で作業を行う場合は、防網を張り親綱を設置して墜落制止用器具（安全帯）を使用しましょう。

